令和７年度「人権教育研究推進事業」研究指定校事業

都道府県・指定都市名（　愛媛県　）

１．基本情報

研究指定校名	西条市立西条南中学校

○これまでの研究指定等の状況

平成 20・21 年度「人権教育研究推進事業」研究指定校

○学級数

15 学級（うち特別支援学級４学級）

○児童生徒数

383 名〈令和７年５月１日現在〉

○URL

https://saijo-minami-j.esnet.ed.jp/

２．調査研究のテーマ、概要、指定理由

調査研究のテーマ	様々な人権課題の解決に向けて主体的に活動できる生徒の育成

○調査研究のテーマを設定した目的

本校区は、西条市南部の自然豊かな地域にあり、二つの小学校区から構成されている。これまで同和問題をはじめとする様々な人権課題に小学校や関係機関と連携しながら計画的、継続的に人権学習に取り組んできた。平成 20・21 年度には文部科学省の人権教育研究指定を受け、ハンセン病問題を中核とした研究を推進し、その成果は地域の人権教育にも生かされている。研究指定後も、中学校３年間を通した実践力の育成を柱に人権学習を継承してきた。

一方で、教職員の若年化に伴い、人権課題に対する認識の深化が課題になっており、これまで積み上げてきた人権・同和教育の理念・指導方法の組織的な継承を踏まえ、研修を進める必要がある。生徒においては、人間関係の固定化や自己有用感の低さ、他者理解の苦手さが見られる。その結果、主体的に課題解決へ取り組む姿勢が十分とは言えない。こうした現状を踏まえ、全ての教育活動を通して、差別や偏見を許さず、自分たちにできることを考え、行動する力を育成することが求められている。

そこで、本研究では教職員研修の充実と家庭や地域、隣保館等の関係機関との連携強化を図り、「学び合い学習」や体験的な人権学習を通して、人権意識と自己有用感の向上を図り、人権課題を自分の問題として考え、主体的に解決しようとする生徒の育成を目指して本研究テーマを設定した。

〇調査研究の概要

本校が積み上げてきた人権学習を基盤に、「学び合い学習」や体験活動を軸とした３年間の系統的な学びにより、生徒の人権課題への意識向上を図る。併せて、教職員が主体的に研修に取り組み、自らの差別心と向き合いながら理解を深め、授業改善に努める。さらに、教育活動全体に人権教育の視点を位置付け、日常的に人権感覚を磨くことで、差別解消に向け主体的に行動できる生徒の育成を目指す。加えて家庭や地域、関係機関との連携を強化し、共に学ぶ人権学習の充実を図る。

〇指定理由

「人権尊重をすべての教育活動の基礎におき、現職教育の充実、進路を保障する教育実践、人権問題学習の推進、仲間づくりを通して生きる力を育む」という方針の下、人権・同和教育を積極的に推進している。

具体的には、「差別に対して怒りを持ち、解消に向けて行動できる生徒」「本気で取り組み、明るく生活できる生徒」「友達の気持ちを理解し、支え合う生徒」の育成を目指し、人権啓発劇の制作をはじめ、様々な資料の開発や活用、また人権・同和教育の視点を取り入れた授業や研修を行っている。

平成 20・21 年度には本研究指定を受け、ハンセン病問題を中心にした人権教育の推進に取り組んだ。この取組を通じて、生徒だけでなく、保護者や地域住民のハンセン病問題に対する関心が大いに高まった。現在もその成果を生かし、学習活動を継続し、ハンセン病問題と同和問題の共通点及び独自性についての研究を更に深化させている。本研究指定を契機に、今後も人権・同和教育の充実が一層進むものと確信しており、その活動を強く推薦する。

３．取り組んだ人権課題

※　該当するものに〇印。複数選択可。うち、最も主要な人権課題１つに◎印。
※　下線部は、令和７年度事業における重点課題。

① 子供	
② 女性	
③ 高齢者	
④ 障害者	〇
⑤ 同和問題	◎
⑥ アイヌの人々	
⑦ 外国人	
⑧−１ HIV 感染者等	
⑧−２ ハンセン病患者等	〇
⑨ 刑を終えて出所した人	
⑩ 犯罪被害者等	
⑪ インターネットによる人権侵害	〇
⑫ 北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬ 性的指向、性自認	〇
⑭ その他（　　）	

４．調査研究の内容等

〇調査研究の内容

ア　人権・同和教育の視点を明確にした系統的な授業実践を展開することで生徒の人権に関する知的理解の深化と人権感覚の醸成が図られるであろう。さらに、体験活動や地域教材の活用により様々な人権課題を自らの事として考え、主体的に解決しようとする実践的な態度を身に付けることができるであろう。
イ　教職員研修を充実させることにより、教職員の人権意識および実践的指導力の向上を図るとともに、生徒、教職員が人権課題の本質を正しく理解し、教育活動全体を通じた効果的な指導ができるであろう。
ウ　地域住民との交流を通して、生徒が故郷の良さを再確認し、故郷を大切にする態度を育成するとともに、地域や家庭、学校において安心して過ごせる居場所づくりを進めることで、生徒の自己有用感を高めていくことができるであろう。

〇実施方法

ア　系統的な授業と体験的な活動・地域教材活用

(ｱ)　ＩＣＴを活用した「学び合い学習」の推進

「学び合い学習」の意義や指導法を教職員で共有するとともに、「学び合う・聴き合う関係づくり」を意識した授業づくりを行った。授業ではＩＣＴを活用して、意見を可視化、共有し、多様な考えを導き出した。状況に応じて紙媒体やホワイトボード等を併用することで、素直な意見を引き出し、対話を基盤とした学習の充実を図った。

(ｲ)　人権・同和教育の視点や教科等横断的な視点を踏まえた授業づくり・年間計画

教科等横断的な視点を取り入れた年間計画を作成・実践した。指導に当たっては、文部科学省「人権教育の指導方法等の在り方について（第三次とりまとめ)」で示されている三つの側面を踏まえ、指導のねらいと活動内容との整合を図った。また、事前・事後学習を充実させることで、理解の深化と内面化を促進した。学校行事とも関連付けながら、段階的に人権に対する理解と実践力を高める取組を行った。

(ｳ)　系統的な学びを重視した全体計画

研究推進体制を見直し、家庭・地域・関係機関との連携を強化することで、人権教育のネットワークづくりを進めた。発達段階に応じた教育内容を工夫し、１年次には人権問題を正しく理解し、不合理や偏見を見抜く力を、２年次には差別の本質を理解し、差別解消への意欲や実践力を、３年次には人権課題を自らの問題として主体的に活動する力の育成を図った。こうした系統的な学びを基盤に全体計画を作成し、全教職員が取組の趣旨と目標を共有することで教育の方向性を統一し、より効果的な指導を推進した。

(ｴ)　体験活動

〇　パラスポーツ体験（１年）

障がいの有無にかかわらず互いを尊重し、支え合う社会の実現に向けて、理解・共感・行動につながる気付きや学びを得ることを目的として実施した。「障がい」＝「できない」ではなく「多様なやり方がある」という気付きも生まれ、偏見や思い込みを取り除く大きなきっかけになった。そして、共生社会実現に向けて自分にできることを具体的に考えた。

〇　中学生人権・同和教育現地研修会（２年）

令和７年度西条市中学生人権・同和教育現地研修会に、本校から生徒７名、教職員２名が参加した。１日目は舳松人権歴史館を訪問し、被差別部落の人々が受けてきた差別の歴史や差別解消への取組を学ぶとともに、所員による体験談を通して、現在も残る差別の実態を理解した。２日目は水平社博物館で水平社創立の歴史や宣言の意義を学び、史跡巡りを通して差別と闘った先人の思いに触れた。研修後は、学んだことを新入生仮入学や人権集会で発表したり、隣保館の文化祭で朗読劇風に発表したりして、学びを地域に広げる取組を行った。

〇　人権啓発劇（３年）

本校では、約 30 年にわたり継続して文化祭で人権啓発劇を上演している。３年生が中心となり、生徒自身の手でシナリオ作成から上演まで主体的に取り組んでいる。テーマは、今までの学びをもとに３年生が伝えたいこと、みんなに考えてほしいことを中心に決めている。講師による講演や聞き取りを通して差別の現実や当事者の思いを学び、話合いや稽古を重ねる中で「差別は社会全体の問題である」という認識を深めることができた。

イ　教職員研修の充実

(ｱ)　研修の充実

　指導案や授業の進め方については、各学年において継続的に協議を行い、各々が研修で得た知見や実践例を共有することで、共通認識のもと指導を行っている。また、地域教材のモデルとなった方から直接話をうかがったり、過去の文部科学省研究指定校事業に関わってきた方から当時の成果と現在の実践とのつながりを確認したりして、差別の現実や思いに触れ、教育による差別解消の重要性を再認識した。教職員一人一人の人権感覚を磨くとともに、実践的な指導力の向上を図った。

(ｲ)　校内定例の教職員研修

　生徒アンケートを分析し、生徒の実態や意識の傾向を把握した上で課題や解決に向けた授業改善の在り方を協議した。現状を全教職員で共有し、共通認識を形成することで、学校全体で一貫した指導が行える体制づくりに努めた。また、「学び合い学習」に関する研修を実施し、全教科での活用を目指している。「学び合い学習」を通して、互いの考えを尊重し合いながら学ぶ姿が見られるようになり、主体的・協働的に学習に取り組む態度の育成につながっていることを教職員自身も実感している。

(ｳ)　人権に関わる講演等の研修会への積極的な参加

　教職員は、県外現地研修や人権に関わる講演会に積極的に参加し、自身の人権感覚を磨いている。長期休業中に、舳松人権歴史館、水平社博物館、国立療養所大島青松園を訪問し、生徒とともに学びを深めた。研修前には各施設の歴史的背景・課題について学習を行い、研修後には感想や気付きを共有するとともに、学びを日常の教育活動や生活に活かす取組を行った。こうした研修を校内研修で報告し合うことで、教職員間で学びを共有し、多様な価値観や多角的な視点を取り入れた人権教育を推進する基盤が築かれている。

ウ　保護者・地域との連携

(ｱ)　子ども会活動

　隣保館を中心に、夏休み学習会やフィールドワーク、現地研修、人権啓発講座などを計画的に実施し、教職員も参加して子どもと共に学ぶ取組を行っている。西条市内の人権課題に関わる史跡や施設、国立療養所大島青松園や香川人権研究所、教科書無償化運動の始まりの場所を訪問し、差別の歴史や現状、当事者の思いに触れ理解を深めた。これらの活動では事前・事後学習を通して学びを深め、地域での発表などを通して、啓発活動へとつなげた。

(ｲ)　ＮＰＯ法人プロジェクト2008との連携

　本校は、平成19年からＮＰＯ法人プロジェクト2008と連携し、ハンセン病問題学習や文化祭における人権啓発劇の取組について継続的な支援を受けてきた。シナリオづくりから演技指導まで助言をいただき、30 年以上続く人権啓発劇の質的向上と継続を支えていただいている。今年度は同法人主催の人権啓発劇に本校生徒がキャストとして参加し、校外においても主体的に啓発活動を広げる経験を積んだ。また、教職員も同法人が主催する若年教職員研究会「若者塾」等の学習会に参加し、授業づくりや指導の在り方について助言を受けることで、人権教育に対する理解と実践力を高めている。

(ｳ)　歩くぞ28㎞

毎年４月に実施する「歩くぞ 28 ㎞」は、最後までやり抜く力や仲間と支え合う心を育むとともに、地域とのつながりを深めることを目的としている。地域の協力により安全に実施できており、生徒は沿道での励ましの言葉や支援を通して地域の温かさを実感している。この活動を通して生徒は困難な目標に対して仲間と共に取り組む意義を学び、互いに認め合い支え合う姿勢を育んでいる。

(ｴ)　人権だより、学級通信による啓発

本校では「人権だより」や「学級通信」を継続的に発行している。教職員や保護者を対象とした人権講座の参加後には、感想や学びをまとめ、「人権だより」で紹介することで、様々な考え方や意見に触れる機会を提供し、家庭での話題作りにつなげている。また、「学級通信」は、授業で引き出しきれない生徒の意見や気付きを共有する有効な手段であり、学級全体での学びの深化に寄与している。これらの取組は、生徒の自己肯定感や保護者の理解促進にもつながっており、学校・家庭・地域が連携して人権意識の向上を図る基盤となっている。

〇検証・評価・改善・普及

＜検証・評価・改善＞

ア　系統的な授業と体験的な活動･地域教材活用による生徒の知的理解と主体性の検証

（令和７年４月と１２月に人権意識アンケートを実施）

〇　知識的側面

アンケート結果から、学年が上がるにつれて人権に関する知識面の理解が向上していることが確認できた。これは３年間を見通した系統的な学習を継続した成果であり、人権に関する基礎的な知的理解が段階的に深まっていると考えられる。特に、本校が 10 年以上に渡り取り組んできたハンセン病問題については、ほぼ全員が「知っている」と回答しており、継続的な学習や国立療養所の訪問等の体験的な活動を通して生徒の理解が高水準（98%）に達していることがうかがえる。

一方、障がいのある人や性的マイノリティについては１年生段階での理解が十分とは言えない状況（71%）が見られた。今後は、小学校段階での学習内容をより意識した引き継ぎを行うとともに発達段階に応じた指導内容や方法を工夫していく必要がある。

〇　価値的・態度的側面

「すべての人を大切にしないといけない」という設問に対しては、全学年において、肯定的な回答は 90%近くを占めており、人権尊重の基本的な意識は一定程度育成されていると考えられる。特に、体験的な活動後にはその割合が上昇しており、体験を通した学びが人権感覚の深化に寄与していることが確認できた。

しかし、「いじめは絶対にいけない」という設問では、「そう思う」という肯定的な回答から「分からない」という回答に変わった生徒がいたことや「そう思わない」と回答する層が変化しなかった点も見られた。この結果については、個々の生徒の悩み事に対する聞き取りや相談体制が不十分であったことが一因であると考えられる。今後は一人一人の思いや背景に寄り添った個別支援を重視した指導を行っていく必要がある。

〇　技能的側面

生徒アンケートでは、「人権問題解消のためにできることを考えている」「人のためになる行動ができる」「誰とでも仲良くなれるよう働きかける」という設問では、肯定的な回答が上昇した。人権教育や学級活動の積み重ね、学び合い学習やＩＣＴ

を活用した意見交流が、社会性・協調性の育成に影響していると考えられる。否定的な回答や「どちらかといえばそう思う」と回答する層が減少していることからも実践への自信が高まり、人のために行動する意識が、学校文化として根付きつつあり、人権感覚の定着が進んでいる様子がうかがえる。

１年生では授業を通して「知らないことが差別を生む」「その人らしさを大事にしたい」という気付きが生まれ、福祉体験活動後には日常生活での思いやりのある行動が増加した。２年生では「行動の必要性」や「周囲へ伝える重要性」を挙げる生徒が多く、現地研修を契機にハンセン病問題を継続して学び広めようとする意欲が高まった。人権啓発劇上演後には全学年で肯定的回答が増加し、事前学習を土台とした効果から他学年への理解の広がりが見られた。

一方で、進級時や長期休業明けには肯定的な回答が低下する傾向があり、人間関係の変化や不安が影響している可能性がある。今後は、学級活動による関係づくりや、発達段階に応じた人権・同和教育の充実が求められる。

また、「いじめを見かけたら行動したい」と回答する生徒は多く、学年が上がるほど「行動する」意識が明確になっている。ただし、時期によるばらつきや「どちらともいえない」層の存在から、周囲の目を気にして行動に踏み切れない生徒もいることが推測される。したがって、安心して意見を述べ、行動できる人間関係づくりをさらに進める必要がある。対話的な活動を重ね、相手に寄り添う言葉遣い・配慮の具体例を示しながら、周囲に流されることなく適切に判断・行動できる態度の育成を継続して図っていきたい。

イ　教職員研修の充実

「人権と法律との関わり」についての設問は、９割が肯定的に回答しており、ハンセン病問題や部落差別を扱う学習の中で日本国憲法や関係法規について考える機会を意図的に設定してきた効果であると考えられる。また、「他者の意見を聞き、様々な考えを尊重している」という設問においても、９割が肯定的な回答を示した。これは、学び合い学習を通した対話的な授業づくりが、意見の違いを受け入れる姿勢の育成に寄与している。教職員の研修報告や生徒の体験学習後の振り返りから、学校全体としての人権教育に関する指導力が向上していることが実感される。また、体験的な学習や教材研究の積み重ねが生徒の意識変容につながったと考えられる。教職員自身が人権課題と向き合い、助言を受けながら「自らの差別心に気付くことができた」と、学びを深めた。

一方、学期末や年度初めなどの多忙な時期や教職員の異動があった時期には、生徒の人権感覚に対する肯定的な回答が減少する傾向が見られた。今後は、多忙な時期でも継続的に研修を実施できる環境整備が求められる。また、教職員が安心して意見を述べ合い、考えを共有できる関係性を意識的に構築することで、研修の質を安定的に維持・発展させていく必要がある。

ウ　保護者・地域との連携

「困った人を進んで助ける」という設問では、肯定的回答が 80%を占めており、生徒が身近な学校生活にとどまらず、広く社会に目を向けている様子がうかがえる。地域や社会をよりよくしたいという意識が広がっており、行動する経験を通して、協力や共感の態度が育成されるとともに、生徒の自己有用感が高まっている。

また、困っている人への手助けに関する肯定的な回答は、学年の積み重ねとともに増加傾向にあり、「主体的に活動しようとする態度」や「周囲への働き掛けの意

欲の高まり」として捉えられる。今後は、具体的な行動の在り方を示しながら、生徒の行動化を一層後押ししていきたい。

一方で、地域内外の活動において「自分が役に立ったと感じている」生徒は５割程度にとどまっている。交流機会の拡充や地域講師を活用した学習など、関わりの質を高める取組が必要である。さらに、「どんな時でも自分を受け入れ、認めてくれる人がいる」という設問では、自己肯定感の向上は見られるものの、その水準は決して高いとは言えない。他者承認の気持ちが高くなるほど自己肯定感も高まる傾向があることから、「自分を認めてくれる人がいる」と生徒が実感できるような関わり方の工夫や、安心して過ごせる居場所づくりに今後も継続して取り組んでいくことが求められる。

５．人権教育にかかる年間指導計画

西条市立西条南中学校

中学校第1学年　年間指導計画

月	主題・単元名	領域	時間	ねらい（人権・同和教育の視点から身に付けさせたい力）	出典	個別の人権課題	普遍的な視点	3つの側面
4月	仲間づくり 「旅での出来事」	道徳	1	互いの個性を尊重し、共に成長できる仲間づくりをしていこうとする態度を育てる。	私たちの道徳（東書）	【子ども】	＜自他の尊重＞	（価値的・態度的側面）
4月	自分の成長と家族・家庭生活	技術・家庭科	1	家族には互いの立場や役割があり、協力することで家族関係をよりよくすることができることを理解する。また、家族関係は変化するものであり、様々な家族の形があることを理解する。	家庭科教科書	【多様な形の家族を構成するすべての人】	＜共生社会の実現＞	（価値的・態度的側面）
4月	世界各地の人々の生活と環境	社会	1	自分たちとは異なる文化や生活について理解し、自分たちと異なる文化や人々の生活を尊重しようとする態度を育てる。	歴史教科書	【外国人】	＜多様性の尊重＞	（価値的・態度的側面）
4月	いろいろな生物とその共通点	理科	1	生物の体のつくりとはたらきについての学習を通して、生命の連続性、有限性、偶然性を実感し、自他の生命を大切にしようとする心情を育てる。	理科教科書	【人権課題全般】	＜生命尊重＞	（知識的側面）
5月	名前覚えコンテスト	学活	2	学級の仲間の名前を正確に覚えることを通して、互いに認め合う集団をつくる。	－	【子ども】	＜自他の尊重＞ ＜コミュニケーション能力＞	（価値的・態度的側面） （技能的側面）
5月	体育大会	学校行事	1	協力的・自主的活動を実践する中で、周囲との関わりを大切に、互いに支え合う集団をつくる。	－	【子ども】	＜人間関係を調整する力＞	（技能的側面）
6月	人権標語づくり	総合的な学習	1	人権標語づくりや互いの作品を発表し合うことを通して、人権尊重の意識を高める。	－	【子ども】	＜自他の尊重＞	（価値的・態度的側面） （技能的側面）
6月	これっていじめ？	道徳	1	いじめの定義や特徴について学び、いじめにつながる事例について考えることで、いじめを見極める力を育てる。	自作資料	【子ども】	＜差別を見極める力＞	（知識的側面）
6月	いじめられる人の気持ちを考える	道徳	1	いじめられる側の心理を考えることで、いじめは間違っているという強い信念を持ち、いじめをなくすために何ができるかを考える。	自作資料	【子ども】	＜人間の尊厳＞	（価値的・態度的側面）
7月	決心	道徳	1	互いの考えを認め合うとともに、差別事象を見抜き、解消しようとする意欲や実践力を育てる。	12のお（愛媛県同和教育協議会）	【子ども】	＜人間の尊厳＞ ＜問題解決のための技能＞	（価値的・態度的側面） （技能的側面）
7月	人権ポスター	美術	1	様々な人権課題の中から自らが訴えたい課題と向き合い、ポスターとして表現していく活動を通して互いを認め合い、ともに高め合おうとする態度を育てる。	美術教科書	【人権課題全般】	＜人間の尊厳＞	（技能的側面）
9月	インターネットと人権	道徳	1	相手を大切にするという人権教育の視点に立ち、相手の気持ちを想像して適切に表現したり行動したりしようとする態度を育てる。	NHK for School	【インターネットによる人権侵害】	＜公正な判断＞ ＜人間関係を調整する力＞	（価値的・態度的側面）
9月	奈良時代の人々の暮らし	社会	1	身分によって生活や負担に違いがあったことに気付き、身分による差別は許されないものだという心情を育てる。	歴史教科書	【部落差別（同和問題）】	＜人間の尊厳＞	（知識的側面）
10月	自己形成	保健体育	1	客観的に自己を見つめ、「自分」という存在を受け入れることで自分らしさを形成していく。	保健体育教科書	【子ども】	＜自尊感情＞	（価値的・態度的側面）
10月	未来への虹 ～ぼくのおじさんはハンセン病～	道徳	1	ハンセン病に関わる差別事象問題についての正しい知識を深める。	法務省 人権啓発教材	【ハンセン病患者・回復者及びその家族】	＜人間の尊厳＞ ＜共生社会の実現＞	（知識的側面）
11月	ハンセン病問題学習	総合的な学習	2	ハンセン病問題について正しく知り、差別や偏見を許さない態度を育てる。	自作資料	【ハンセン病患者・回復者及びその家族】	＜人間の尊厳＞	（価値的・態度的側面）
11月	人権啓発劇　観劇	学校行事	1	自分の心と向き合い、差別解消に向けて実践できる生徒を育成する。	自作資料	【部落差別（同和問題）】 【ハンセン病患者・回復者及びその家族】 【インターネットと人権】	＜人間の尊厳＞ ＜多様性の尊重＞ ＜差別を見極める力＞	（知識的側面） （価値的・態度的側面）
11月	性的マイノリティ 「多様な性って何だろう」	道徳	1	性的マイノリティの人たちの心情を理解し、差別や偏見をなくし、誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指そうとする態度を養う。	特定非営利活動法人Rebit	【性的指向・性自認】	＜多様性の尊重＞	（知識的側面）
11月	障がいとは何か考えよう	道徳	2	「障がい」とは何であるかを考えさせるとともに、自分自身の差別心に気付かせ、問題と向き合って考える意欲を育てる。	NHK for School	【障がいのある人】	＜共生社会の実現＞ ＜多様性の尊重＞	（知識的側面） （価値的・態度的側面）
12月	差別の現実に学ぶ学習	総合的な学習	8	各課題に分かれて、不合理な差別の現実を深く学び、差別を許さない心を育てる。	自作資料	【部落差別（同和問題）】 【性的指向・性自認】 【ハンセン病患者・回復者及びその家族】 【障がいのある人】　など	＜問題解決のための技能＞	（技能的側面）
12月	Unit9 Think Globally, Act Locally	英語	1	世界的問題について書かれた文章を読むことを通して、世界で起こっている問題について関心を高め、国際協力しようとする心情を育てる。	英語教科書	【外国人】	＜共生社会の実現＞	（知識的側面）
12月	人権獲得の歴史 （解放令まで）	総合的な学習	1	解放令までの人権獲得の歴史について正しく知り、部落差別の不合理を科学的に認識させる。	自作資料	【部落差別（同和問題）】	＜人間の尊厳＞	（知識的側面）
12月	又四郎の言葉	社会	1	室町時代の文化の多くが差別された人々によって創られたものであることを知るとともに、優れた知識や技術、芸能を持ちながらも差別された人々の悲しみを感じ取り、なぜ差別が生まれたかを考え、差別を許さない心情や態度を育てる。	シリーズ映像で見る人権の歴史（第8巻）	【部落差別（同和問題）】	＜人間の尊厳＞ ＜差別を見極める力＞	（知識的側面） （価値的・態度的側面）
2月	資料の活用	数学	1	世界の気候の違いの読み取りを通して、世界の各地域での文化の違いの理解を深める。	数学教科書	【外国人】	＜多様性の尊重＞	（価値的・態度的側面）
2月	室町文化とその広がり	社会	1	室町文化を作り上げた優れた技術を持つ人々が、厳しい差別を受けていたということを理解し、差別のない社会の実現のために行動していこうとする心情を育てる。	歴史教科書	【部落差別（同和問題）】	＜人間の尊厳＞	（知識的側面）

西条市立西条南中学校

中学校第2学年　年間指導計画

月	主題・単元名	領域	時間	ねらい（人権・同和教育の視点から身に付けさせたい力）	出典	個別の人権課題	普遍的な視点	３つの側面
5月	名前覚えコンテスト	学活	2	学級の仲間の名前を正確に覚えることを通して、互いに認め合う集団をつくる。	－	【子ども】	＜自他の尊重＞ ＜コミュニケーション能力＞	価値的・態度的側面 技能的側面
5月	体育大会	学校行事	1	集団行動や団体競技を実践する中で、周囲との関わりを大切に、互いに支え合う集団をつくる。	－	【子ども】	＜人間関係を調整する力＞	（技能的側面）
6月	差別の現実に学ぶ学習	総合的な学習	2	各講座に分かれて、これまで学んだことを講座の中でプレゼンテーションすることで、不合理な差別の現実を深く理解する。	－	【障がいのある人】 【部落差別（同和問題）】 【ハンセン病患者・回復者及びその家族】 【性的指向・性自認】など	＜差別を見極める力＞ ＜問題解決のための技能＞	（技能的側面）
6月	熊本での宿泊拒否問題に関する新聞記事	道徳	2	ハンセン病について正しく理解するとともに、無知が差別を引き起こした原因であることを踏まえて、今の自分たちにできることを考えさせる。	毎日新聞 東京新聞	【ハンセン病患者・回復者及びその家族】	＜差別を見極める力＞ ＜問題解決のための技能＞	（知識的側面） （価値的・態度的側面）
6月	人権標語に思いを込めて	学活	1	人権委員会で考えたキーワードを参考にして、これまでの学習の中で、一人一人が差別解消に向けた思いを標語にする。	－	【子ども】	＜自他の尊重＞ ＜共感的態度＞	（価値的・態度的側面） （技能的側面）
6月	連立方程式の利用	数学	1	パラリンピックでの車いすバスケットボールで活躍選手の姿を通して、障がいのある人への偏見を取り除き、自分の固定観念に縛られず、互いを尊重し支え合いながら生活しようとする心情を育てる。	数学教科書	【障がいのある人】	＜自他の尊重＞	（価値的・態度的側面）
7月	人権尊重の歴史１ （江戸～大正）	学活	1	部落差別の歴史と不合理な差別の現実を深く理解する。	－	【部落差別（同和問題）】	＜人間の尊厳＞	（知識的側面）
7月	人権ポスター	美術	1	様々な人権課題の中から自らが訴えたい課題と向き合い、ポスターとして表現していく活動を通して互いを認め合い、ともに高め合おうとする態度を育てる。	美術教科書	【人権課題全般】	＜人間の尊厳＞	（技能的側面）
7月	教科書無償運動	道徳	2	憲法に定められた権利を守らせるために闘った人々の生き方やその誇りから、信念を持って粘り強く取り組む態度を育てる。	高知県人権教育資料集１「つながり」	【部落差別（同和問題）】	＜法の下の平等＞ ＜差別を見極める力＞	（知識的側面） （価値的・態度的側面）
9月	生物の体のつくりとはたらき	理科	1	生物の体のつくりとはたらきについての学習を通して、生命の連続性、有限性、偶然性を実感し、自他の生命を大切にしようとする心情を育てる。	理科教科書	【人権課題全般】	＜生命尊重＞	（知識的側面）
9月	幼児の生活と家族	技術・家庭科	1	子どもが育つ環境としての、家族や周囲の大人の役割について理解する。	教科書	【子どもの権利】 【男女共同参画社会】	＜自尊感情＞	（価値的・態度的）
9月	Unit5 Universal Design	英語	1	誰もが暮らしやすい社会について考えたり、ある人物の功績について書かれた文章を読んだりすることを通して、障がいの有無に関わらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合いながら生活しようとする心情を育てる。	英語教科書	【障がいのある人】	＜共生社会の実現＞	（知識的側面）
10月	字のない葉書	国語	1	戦時中の様子や父の子に対する想いを読み取ることを通して、性別に関わらず、誰もが平等であり生命を尊重されるべきであるという心情を育てる。	国語教科書	【女性】 【子ども】	＜法の下の平等＞ ＜人間の尊厳＞ ＜生命の尊重＞	（価値的・態度的側面）
11月	人権啓発劇　鑑賞	学校行事	—	自分の心と向き合い、差別解消に向けて実践できる生徒を育成する。	自作資料	【部落差別（同和問題）】 【ハンセン病患者・回復者及びその家族】 【インターネットと人権】	＜人間の尊厳＞ ＜多様性の尊重＞ ＜差別を見極める力＞	（知識的側面） （価値的・態度的側面）
12月	里帰り	学活	1	ハンセン病について正しく知り、ハンセン病に関わる差別事象問題の学習を通して、差別や偏見のない「ふるさと」をつくろうとする態度を育てる。	西条市内中学校自作資料	【ハンセン病患者・回復者及びその家族】	＜共生社会の実現＞	（価値的・態度的側面）
12月	江戸幕府の成立と対外政策	社会	1	江戸時代の身分制度と武士、百姓、町人それぞれの職分や生活の様子を理解する。また、百姓とは別に、差別された身分の人々がいたことについて正しく理解する。	歴史教科書	【部落差別（同和問題）】	＜人間の尊厳＞ ＜公正な判断＞	（知識的側面）
1月	人権尊重の歴史２	学活	1	明治時代から昭和時代にかけての学習を通して、差別のその当性を理解させ、差別と闘ってきた人たちの願いや思いを考える。	－	【部落差別（同和問題）】	＜人間の尊厳＞	（知識的側面）
2月	浜染一揆	学活	2	厳しい身分制度の中で、人間らしく生きるために、人々が団結し、苦闘した姿を知り、差別を許さない態度を育てる。	はのお	【部落差別（同和問題）】	＜人間の尊厳＞ ＜差別を見極める力＞	（知識的側面） （価値的・態度的側面）
2月	明治維新	社会	1	明治維新による社会の変化、特に身分制度の廃止の意義と問題点について考察し、表現する。	歴史教科書	【部落差別（同和問題）】	＜人間の尊厳＞ ＜公正な判断＞	（知識的側面）
3月	解放令 「命かけても」	道徳	1	解放令公布後も反対一揆が起こるなど変わらぬ差別の厳しい現実を知り、命をかけて差別に立ち向かう人々の姿から、差別を許さない心情を育てる。	西条市内中学校自作資料	【部落差別（同和問題）】	＜人間の尊厳＞ ＜生命尊重＞	（知識的側面） （価値的・態度的側面）
3月	拉致問題「めぐみ」を身近なものとして考える	道徳	1	国家犯罪である拉致問題に対する理解を深め、誰もが安心して生活できる社会にするために自分にできることは何かを考える。	ＤＶＤ	【拉致問題】	＜問題解決のための技能＞	（知識的側面）
3月	「あなたがあなたらしく生きるために」	道徳	2	「人権問題としての性的マイノリティ」について正しい知識を増やし、学ぶ意義や解決すべき課題を明らかにし、全ての人の人権を尊重しようとする意欲を高める。	法務省人権啓発資料ギャラリー	【性的指向・性自認】	＜多様性の尊重＞	（知識的側面） （価値的・態度的側面）

西条市立西条南中学校

中学校第3学年　年間指導計画

月	主題・単元名	領域	時間	おおいに人権・同和教育の視点から身に付けさせたい力	出典	【個別の人権課題】	＜普遍的な視点＞	（3つの側面）
4月	広がる社会運動と男子普通選挙の実現	社会	1	デモクラシーの高まりなどの影響を受け、多くの社会運動が盛んになった中で、水平社、青鞜社、北海道アイヌ協会設立などと、自ら立ち上がり権利獲得を目指したことを理解する。	歴史教科書	【部落差別（同和問題）】 【女性】 【アイヌの人々】	＜人間の尊厳＞	（知識的側面）
4月	水平社 「水平社宣言と西光万吉」	学活	2	西光万吉の生き方を通して、水平社宣言の精神を感じるとともに、差別を許さない心情を育て、部落解消への実践力を育てる。	県同和教育課教材	【部落差別（同和問題）】	＜自他の尊重＞	（知識的側面） （価値的・態度的側面）
5月	名前覚えコンテスト	学校行事	1	学級の仲間の名前を正確に覚えることを通して、互いに認め合う集団をつくる。	―	【子ども】	＜自他の尊重＞ ＜コミュニケーション能力＞	（価値的・態度的側面） （技能的側面）
5月	体育大会	学校行事	1	集団行動や団体競技を実践する中で、周囲との関りを大切に、互いに支え合う集団をつくる。	―	【子ども】	＜人間関係を調整する力＞	（技能的側面）
5月	生物の種類の多様性と進化	理科	1	生物の遺伝の学習を通して、命の大切さと尊さを知るとともに、自他の命を大切にしようとする態度を育てる。	理科教科書	【人権課題全般】	＜生命尊重＞	（知識的側面）
5月	人権獲得の歴史	総合的な学習	1	大正以降の人権獲得の歴史についてまとめ知り、部落差別の不合理について今まで学んだ知識を確認しながら認識を深める。	―	【部落差別（同和問題）】	＜人間の尊厳＞	（知識的側面）
6月	人権標語づくり	総合的な学習	1	人権標語づくりや互いの作品を発表し合うことを通して、人権尊重の意識を高める。	―	【子ども】	＜自他の尊重＞	（価値的・態度的側面） （技能的側面）
6月	ある先輩からの手紙	道徳	1	差別を見抜く力を養うとともに、就職差別の解消に向けて強い意欲をもって取り組もうとする態度や実践力を身に付ける。	ほのお	【部落差別（同和問題）】	＜差別を見極める力＞	（価値的・技能的側面）
7月	人権ポスター	美術	1	様々な人権課題の中から課題と向き合い、ポスターとして表現していく活動を通して互いを認め合い、ともに高め合おうとする態度を育てる。	美術教科書	【人権課題全般】	＜人間の尊厳＞	（技能的側面）
9月	等しく生きる権利	社会	1	基本的人権を基礎付ける法の下の平等の意義を理解し、男女共同参画社会や障がいのある人とともに生きる社会を実現する施策について多面的・多角的に表現する。	公民教科書	【女性】 【障がいのある人】 【外国人】	＜法の下の平等＞	（価値的・態度低側面）
9月	子どもの権利条約	社会	1	権利条約の学習を通して、人権尊重についての意識を高める。	公民教科書	【子ども】	＜人間の尊厳＞ ＜法の下の平等＞	（技能的側面）
9月	故郷	国語	1	身分や生活水準の違いで心の距離ができてしまった幼馴染の二人の心情を読み取ることを通して、身分などで差別されることのないようなよりよい社会の構築を目指そうとする態度を育てる。	国語教科書	【その他の重要課題】	＜共生社会の実現＞	（価値的・態度的）
9月	就職差別解消に向けて 「就職差別につながるとされる14項目」	学活	1	何気なく見過ごしていることの中にも、差別につながることがあることに気付かせ、同和問題は、自分たちの将来と無縁であるという考えを打ち破り、同和問題解決への実践力を養う。	西条市同和教育資料	【部落差別（同和問題）】	＜公正な判断＞ ＜問題解決のための技能＞	（知識的側面） （技能的側面）
10月	身元調査お断り運動	学活	1	身元調査お断り運動の意味をまとめ理解し、部落差別解消に向けて自分にできることを考え、実践しようとする態度を育てる。	「にんげん」	【部落差別（同和問題）】	＜人間の尊厳＞	（価値的・態度的側面）
10月 11月	人権啓発劇	総合的な学習・学校行事	12	差別課題である部落差別に関する差別問題を取り上げた人権啓発劇を通して、自分の心と向き合い、差別解消に向けて実践できる生徒を育成する。	自作資料	【部落差別（同和問題）】 【ハンセン病患者・回復者及びその家族】 【インターネットと人権】	＜人間の尊厳＞ ＜多様性の尊重＞ ＜差別を見極める力＞	（知識的側面） （価値的・態度的側面）
11月	人権集会	学活	1	LGBTQについて正しい知識を身に付け、自分に何ができるのか、これからの行動を考えさせる。	―	【性的指向・性自認】	＜多様性の尊重＞ ＜問題解決のための技能＞	（技能的側面）
12月	結婚差別 「小春日和」	道徳	2	結婚差別の現実から、差別の醜さや不合理さを認識し、差別に対して粘り強く立ち向かっていける態度を育てる。	自作資料	【部落差別（同和問題）】 【子ども】	＜差別を見極める力＞ ＜問題解決のための技能＞	（価値的・態度的側面）
12月	Unit 6 A Legacy for Peace	英語	1	自らが差別を受けながらも、差別解消に向けて行動するガンディーの姿の読み取りを通して、正義を貫き、公正、公平な社会を具現化していこうとする心情を育てる。	英語教科書	【外国人】	＜共生社会の実現＞	（知識的側面）
1月	標本調査とデータの活用	数学	1	世界の気候の違いの読み取りを通して、世界の各地域での文化の違いの理解を深める。	数学教科書	【外国人】	＜多様性の尊重＞	（価値的・態度的側面）
1月	現代の戦争と平和	社会	1	北朝鮮拉致問題について理解し、いまだに多くの被害者が北朝鮮に取り残されている現状を知り、問題を風化させないようにする。	歴史教科書	【北朝鮮による拉致問題】	＜共感的に理解する力＞	（価値的・態度的側面）
1月	自然が人間生活におよぼす影響	理科	1	地球で起きる様々な災害について学習し、震災や火災の際、様々な人々と対応について考えさせる。	理科教科書	【被災者】	＜生命尊重＞ ＜問題解決のための技能＞	（知識・態度）

６．推進体制（都道府県・指定都市教育委員会等を含む）

